

「福島対策とベンチマーク視察」

水町 渉 氏 (ISOE 第7代議長)

福島第一原子力発電所の事故の教訓を反映した、国内の原子力発電所のシビアアクシデント対策や海外のプラントにおける状況等が紹介された。

福島事故への日本の原子力発電所の対策としては、1. ガスタービンを用いた電源供給の多様化、2. 炉心への冷却水供給システム、3. 計装系の多様化、4. 燃料取替プールなどの強化などがあげられ、また、事故対応訓練の強化が紹介された。

ベンチマーク訪問について、米国のフォートカルブーン、ザイオン、ピーチボトム及びボウグルの各原子力発電所、及びチェルノブイリ原子力発電所の視察結果が報告された。米国では、内陸に立地するプラントが多く、降雪や洪水対策も重要となっている。PCV ベントの設置状況等も紹介された。

チェルノブイリ訪問では、事故後の復旧やプルシアンブルーを牛に与えることによってセシウムを排出した経験などが紹介された。また、2011年5月のIAEA福島事故調査団によるコメントが紹介された。

Overview of Major Countermeasures in the Power Station as of June 17

